掲載日:2013年12月24日,面名:LB0XX0,記事ID:K201312240A0LB0XX00001 (C)河北新報社

自然が育んだ精神文化

大正大客員教授 多田 孝文

ただ・こうぶんさん　1942年神奈川県生まれ。72年大正大大学院博士課程修了。大正大講師、助教授を経て2002年教授、10年学長、13年名誉教授、客員教授、日本に健全な森をつくり直す委員会委員、南三陸研修センター「いりやど」代表理事。

●世界中が称賛

東日本大震災と原発の災害は、たちまちにして国中を不安と混乱の渦に巻き込んだ。略奪が度々報じられている。

この悲惨な状況は、直ちに全世界に報道発信された。特に世界の人々が、驚きを持って感じられたのは、全てを失った苦痛と恐怖のどん底にある被災者の行動であったようである。例えばそれは、各地各機関から寄せられた救援物資が、整然と静かに受け渡し配布される姿である。外国からの報道記事には「気品ある日本人」と称賛されていた。たしかに先進大国であっても一度災害や事件が起きると暴動ではない。もちろん教育の成果ということもあるが、日本人の精神文化は、豊かな自然とおだやかな四季の恵みを受け、採集の生活から育まれたのが日本人の国民性であろう。ただし、自然は、突然に鋭い牙をむきだすのである。その度に人々は、これに耐え再生を繰り返して来たのである。

●日本人の財産

日本人のやさしさ・勤勉・繊細・素直・真面目・忍耐などの精神文化もここから生まれたものであって、実はこの「不思議な力」が日本人の財産というべきものである。

この日本人の精神文化は、やがて仏教の哲学・思想が伝来し融合してめざましい展開をすることになった。聖徳太子が「和」「敬」などをもって国を治めることを提唱したのは、この国の自然環境と国民のあり方を巧みに洞察したからである。

大正大学は震災以来、宮城県南三陸町で支援活動を継続している。たこ鎮・研修センター「いりやど」を建設、ここを拠点としてのさまざまなプログラムを通じて地域復興の過程から多くのことを学んでいる。

●心の源流確認

さらに「日本に健全な森をつくり直す委員会」（養老孟司委員長）の諸先生方のご指導による「森里海連環学」を推進し、瀕死（ひんし）の状態にある全国の森林、特に寺院の森の再生をもこの南三陸から発信するための調査を始めている。完全なる学習と実践を極めた先学たちは、「真理の世界からすれば人間と草木とも殊（こと）なりすらない」と見ている。日本人が顧みなくなった自然に触れ合い、誇るべき日本の心の源流を確認するのが当講座の目標である。

◇

大正大（東京）と河北新報社の連携事業として、同大が宮城県南三陸町などで行う出前講座、フィールド学習の内容を担当の講師に月1回報告してもらいます。